

3年と屋敷

※題字／森川芳聲



もくじ

2 巻頭言

『日本の偉人100人+50人』刊行… 山口 秀範

3 あれこれ思うこと(最終回)… 古川 忠

4 「偉人レポート」… 日下部晃志

6 教師生活を振り返って②… 矢永 誠二

7 唱歌「童謡」
― 先人からの贈りもの(最終回)… 寶邊 矢太郎

8 天地いっぱい⑥… 森川 徹

9 みとらしのあづさのまゆみ③… 廣木 寧

10 TERA KOYAふおとれぼーと

11 “あちこちde寺子屋”のご案内

12 歌碑のこころ(22) 編集余録 余録の余録②



元寇碑／福岡市東区箱崎 筥崎宮

歌碑のこころ

元寇

四百余州を挙る 十万余騎の敵
国難ここに見る 弘安四年夏の頃
何ぞ怖れん我に 鎌倉男児あり
正義武断の名 一喝して世に示す



防壘石／福岡市東区箱崎 筥崎宮

※詳しく解説は17頁に随時掲載しております

『日本の偉人100人+50人』刊行

代表世話役 山口秀範

十年前の出版

今から丁度十年前に『日本の偉人100人(上下巻)』を世に問いました。それまでにあちこちで語ってきた古今の偉人に加えて、各時代の代表的人物をリストアップしたところ、倍近くの候補偉人が挙がりました。それから百人に絞る作業が難航したことは記憶に新しいのですが、ともかく四十三名の同志友人たちに一人乃至数人の偉人を受け持つてもらい、数冊の書物を読み込んだうえで執筆するようお願いしました。

原稿が揃ったところで編集にかかりましたが、読者の立場で一読すると文意が不明瞭であったり、生涯を総花的に取り上げたり、専門的過ぎたり、難し過ぎたり(「中高生でも読める」ことを標榜した)と、問題山積であることが判明しました。それから個別に執筆者とやり取りして一部書き直しを依頼したり、加筆修正を了解いただいたりしながらようやく刊行に漕ぎつけたのです。

初版五千部でしたが、致知出版社の藤尾秀昭社長が「この本はロングセラーになります」と予言した通り、この十年間で第五版まで増刷されています。



致知出版社 1,980円(税込)

『+50人』の企画

十年前の出版で「積み残し」になった偉人のことはずっと気にかかっていたいました。今回の話が持ち上がり懸案解消を旨として五十人のリストを作ろうとすると、圧倒的に明治以降の人物に偏ってしまい、熟考の末結局はまた積み残す事態となりました。

それでも今回津田梅子を入れたことで、現在のお札の顔である福沢諭吉、樋口一葉、野口英世、二年後に登場する渋沢栄一、北里柴三郎(いづれも上巻)と全員を掲載することが出来ました。学生時代からの生涯の恩師・小田村寅二郎先生を加えられたことも嬉しい一つです。

偉人選択の基準は前回同様「自分のことよりも誰かのため、世のため国のために生きようとした人」を堅持しましたが、とりわけ「日本人として生きよう」と努めた人々」に光を当てたつもりです。

今回も二十九名の執筆協力者にご尽力いただいた上で編集作業を進めました。寺子屋モデルの周辺に、日頃から偉人に興味を抱きつつ生きている仲間がいることは大変心強い限りです。

校正作業

昨年末に初稿ゲラが出て、一ヶ月余りで校正を完了しました。ここでも十一名の友人が分担して作業に当たってくれ有難いことでしたが、何と言っても共同編著者である廣木寧の精励抜きにはこれほどスムーズに校了を迎えることはなかったでしょう。

その廣木が編集後記に「日本人は万葉の昔から歌を詠んできました」と記し、本書に掲載した軍人の今村均も、

前書で取り上げたノーベル賞受賞者湯川秀樹も和歌を遺していることにふれています。このように専門歌人でない多くの偉人たちが昭和の半ば頃までは歌を詠んでいたのに、それ以降めつたにお目にかからなくなったという指摘は重要です。和歌を詠み交しながらお互いを思いやり、まごころを受け止めてきた先人たちの営みを甦らせたいと切に思います。

かくして『日本の偉人100人+50人』という珍しい書名で書店に並ぶことになりました。表紙の色は上巻の赤、下巻の緑に続いて明るい青で爽やかな印象です。

偉人伝のある家庭

「はしがき」に記していますが、新渡戸稲造が『武士道』の中で紹介している明治中頃の日本には、庶民の生活と身近なところに偉人伝がありました。それから百年、ようやく正式教科となった「道徳」の教科書を開くと、スポーツ選手のカラー写真ばかりが目につき歴史上の人物は数えるほどです。

家庭でもお父さんお母さん自身が偉人伝にふれる機会のないまま親になっているので、我が子に伝えようがないのです。かくして、百五十人でも氷山の一角に過ぎないほどの偉人山脈は宝の持ち腐れとなっています。

二年後に開校する「志明館」では道徳(人間力)の教材として既に「偉人伝」・「素読暗唱」・「伝統文化・礼儀作法」の三部作を用意していますが、更に「志と日本文化」という独自科目を設けて、偉人伝教育をさらに充実させます。未来の初等教育のモデルとなる「志明館」を自任しつつ準備を加速して参ります。

上下巻と『+50人』の三冊セットを本箱に並べる「偉人伝のある家庭」が当たり前の風景となるようにご協力をお願いします。特にご友人等お誘いの上、書店に足を運んでお購めくだされば幸いです。